

平成22年2月

西田道弘 学位論文審査要旨

主 査 黒 沢 洋 一
副主査 福 本 宗 嗣
同 岸 本 拓 治

主論文

胃内視鏡検診の生存率による有効性評価

(著者：西田道弘、岡本幹三、濱島ちさと、尾崎米厚、岸本拓治)

平成21年 米子医学雑誌 60巻 184～191頁

審査結果の要旨

本研究は、鳥取県地域がん登録に登録された米子市在住の胃がん罹患者314名を対象とし、胃がん検診受診者名簿をもとに、診断日以前の1年以内の検診受診状況により胃内視鏡検診群、胃X線検診群、未受診群に3区分し、Kaplan-Meier法とCox回帰分析により累積生存率と死亡に関する調整ハザード比を求め、各群を比較検討したものである。その結果、胃内視鏡検診群と未受診群との比較では、胃内視鏡検診群が生存率において有意に高く、死亡に関する調整ハザード比において有意に低かった。胃内視鏡検診群と胃X線検診群との比較では、胃内視鏡検診群が生存率において高く、死亡に関する調整ハザード比において低い傾向を示したが、統計学的に有意でなかった。このことは胃内視鏡検診の死亡率減少効果を示唆し、胃内視鏡検診の有効性に関する有力な傍証となるものである。

本論文の内容は、胃内視鏡検診の有効性を示唆するものであり、その成果はがんの2次予防研究の領域で明らかに学術水準を高めたものと認める。